令和元年・2年度

鹿児島県租税教育研究会

租税教育の実際

令和2年度（11月）

曽於市立末吉中学校

目次

１　はじめに
（１）　曽於市の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ１
（２）　学校・生徒の実態・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ１

２　研究の概要
（１）　研究主題・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ２
（２）　主題設定の理由・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ２
（３）　研究仮説・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ２
（４）　租税教育の目標・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ２
（５）　研究の組織・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ３
（６）　租税教育全体計画・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ３
（７）　研究の経過・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ４
（８）　各教科との関連性・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ５

３　研究の実際
（１）　令和元年度「税に関するアンケート」分析・・・・・・・・・Ｐ６
（２）　社会科での取組①～⑥・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ７～Ｐ１２

４　研究の成果と今後の課題
（１）　２年間の研究のまとめ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ１３
（２）　成果と課題・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ１４

５　おわりに ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ１４

１　はじめに

（１）　曽於市の概要

本市は，鹿児島県東部を形成する大隅半島北部に位置しており，宮崎県都城市，志布志市，霧島市，鹿屋市，曽於郡大崎町に接している。曽於市は，２００５年７月１日に，曽於郡の末吉町・財部町・大隅町の３町が合併し成立した市である。市の面積は，３９０．１４平方キロメートルで，鹿児島県の総面積４．３％を占めている。令和２年８月１日現在，人口３万４千６５２人である。

本市の広域交通網は，市の中央部を東西に国道１０号，南北に国道２６９号が走り，南西部には東九州自動車道，東部には地域高規格道路が整備中で，宮崎県の中核都市である都城市まで１５分，志布志港まで約３０分，鹿児島空港・宮崎空港までの約１時間の圏域にある。本市は自然環境にも恵まれ，花房峡，大川原峡，大鳥峡などの景勝地が点在している。土地の利用状況は，山林が総面積の約６０％，耕地が約２０％を占め，地質の大部分がシラスやボラなどの火山灰土壌からなる。

曽於市は，畜産の町と呼ばれ，株式会社ナンチクに代表される畜産が盛んな場所である。末吉中の近くにある株式会社ナンチクは，食品加工等を行う企業で，令和元年は年商５１７億円の大企業である。本校も，畜産や農業関係の仕事に就いている保護者が多く，生徒も農作業を手伝い，畜産関係の職に就く生徒も多数存在する。地域一丸となり，農業大国鹿児島を支える貴重な人材を育てている。

（２）　学校・生徒の実態

本校は今年で創立４８周年を迎える。令和２年９月１日現在の生徒数は４４３名である。平成２０年度に完成した新校舎は，内装に木材が多く使われ，落ち着いた雰囲気を感じさせる。生徒が主役の学校を目指し，「心に届く挨拶」「無言清掃」「整理整頓」に力を入れ，日々勉強やスポーツに励んでいる。平成２８・２９年度には，県教育委員会の「情報モラル教育」研究推進校，令和元年・２年度は，「たくましい“かごしまっ子”育成推進事業」の推進校として日々学校全体で研修に取り組んでいる。

２　研究の概要

（１）　研究主題

租税教育を通して，税についての理解を深め，納税に対する納得感の醸成と主体的に社会を支えようとする態度や資質を育成する。

（２）主題設定の理由

鹿児島県租税教育の目標は，「租税に関連した事項を通して郷土について関心を高め公民としての資質を身に付け，国家及び社会の権利と義務の主体者として，自主的に判断し行動するための諸能力を育てる。」である。

そのため，社会で生きていく生徒は，公民的資質を身に付けていき，権利と義務の主体者として，正しい税の意義や役割を理解し，納税に対する納得感を醸成しなければならない。

日本の財政状況は，平成３０年度国の歳出で，最も大きい割合を占める支出は，社会保障が３３兆円である。国の歳入総額９８兆円のうち，税収は約３分の２で，残りの３分の１は「新たな借金」で構成される。結果，国の借金は急速に積みあがり平成３０年度末の国の借金総額は８８３兆円に達する見込みである。このまま，借金を積み上げると様々な問題が生じ，若い世代へのしわ寄せが考えられる。

国民の一人ひとりが予算の使い道を真剣に考え，どのような予算分配をすればよいか考える必要がある。そのためにも，中学生時代に「税金がどのように使われているか」「なぜ税金を納める必要があるか」「日本の財政状況はどうなっているのか」を真剣に考え，公民的資質を高めていく必要があると考え，主題を設定した。

（３）　研究仮説

身近な題材から租税教育を行い，税金の使用方法や国の財政状況を知ることで，生徒の税に関する興味・関心が高まり，納税に対する納得感や社会を支える態度や公民的資質が育成されるのではないか。

（４）　租税教育の目標

①　学校全体の教育活動で税に関する興味・関心を高める。

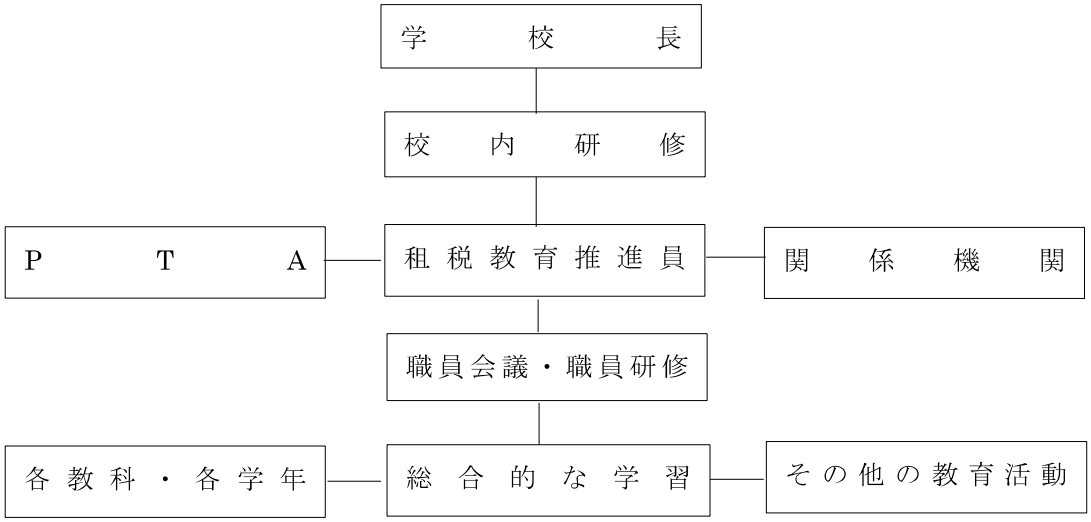
②　納税に関しての納得感を醸成していく。

③　税の役割や種類，使用方法について正しい知識・理解を深め，日本の財政状況も理解させる。

④　公共物を大切にする態度や資源を大切にする態度を育成する。

⑤　納税者の一員として何ができるのか，考えさせるきっかけとする。

（５） 研究の組織



（６） 租税教育全体計画

曽於市立末吉中学校の学校教育目標

人間性豊かにたくましく生きる生徒の育成

めざす生徒像

・　豊かな心・固い意志・溢れる知性・強い体力

めざす学校像

・　率先垂範・個別支援・共通実践・行動重視

鹿児島県租税教育の目標

租税に関連した事項を通して郷土について関心を高め，公民としての資質を身に付け，国家及び社会における権利と義務の主体者として，自主的に判断し行動するための諸能力を育てる。

鹿児島県租税教育推進協議会の目標

身近な生活と租税の関わりを生徒が自主的に調査し，研究発表,資料収集を協力して学習することにより，郷土についての理解を深め，主体的に行動できる生徒の育成を目指す。

租税教育　研究主題

租税教育を通して，税についての理解を深め，納税に対する納得感の醸成と主体的に社会を支えようとする態度や資質を育成する。

（７） 研究の経過

① 令和元年度（１年目）

月	内　　容
４月	・租税教育推進校の委嘱 ・租税教育係の設置や研究主題の設定
５月	・租税教育年間計画の検討
６月	・租税教室の開催
７月	・税に関する作文や標語作成
８月	・租税教育資料のまとめと今後の計画検討 ・大隅税務署での体験学習 ・税に関する作文の添削指導
９月	・第１回　税に関するアンケート実施と分析
１１月	・文化祭で税に関する調べ学習廊下掲示 ・曽於市市民祭タックスフェスタ生徒参加 ・鹿児島県租税教育研究会への出席
１２月	・令和元年度活動報告まとめ準備
３月	・１年目の研究まとめ ・次年度の研究計画案の修正

② 令和２年度（２年目）

月	内　　容
４月	・研究計画の確認 ・各教科での取り組み開始 ・税に関する資料の廊下掲示
５・６月	・租税教育推進会や租税教室を計画していたが中止
７月	・税に関する作文や標語の作成
８月	・１１月の租税教育研究会に向けて研究誌作成 ・１１月の租税教育研究会に向けてパワーポイント作成 ・税に関する作文の添削指導
９月	・租税教室の開催 ・第２回　税に関するアンケートの実施と分析
１０月	・研究冊子の完成
１１月	・文化祭で税に関する調べ学習発表
３月	・２年目の研究のまとめ ・次年度の計画案の作成

（８）各教科との関連性

教　科　等	指　　導　　内　　容
国　　語	・　文学作品等を通じ，人間としての生き方について理解を深める。 ・　目的や場所に応じた表現ができる能力を育てる。 ・　言語活動の充実を通して，思考力や判断力を育てる。
社　　会	・　税を通し，国家・社会の形成者として必要な公民的資質の基礎を養う。 ・　郷土や各地域の特色に関連する税の役割を取り上げる。（地理的分野） ・　租税や歴史的な変遷とその意義を取り上げる。（歴史的分野） ・　国や地方公共団体が果たしている顕在的な役割の中で，租税の意義と役割及び納税の義務を取り上げる。（公民的分野）
数　　学	・　表やグラフ，数値を基に資料を分析して，お互いの関連や資料全体としての傾向や特徴を理解できるようにする。 ・　消費税やその他の税率の計算等を通して，税の割合等を意識させる。
理　　科	・　自然事物の理解を深め，自然と調和した行動がとれるようにする。 ・　実験器具を税金で購入することを理解，納税の大切さを考えさせる。
英　　語	・　他の国々の習慣，文化，風俗，ものの考え方・見方の違い等に対する理解を深め，国際社会に生きる自覚を高め，国際協調の精神を養う。 ・　環境問題等を地球規模で考え，自然や物を大切にする生徒を育成。
音　　楽	・　表現及び鑑賞の幅広い活動を通し，豊かな心を養い，感動できる幅広い人間を育てる。 ・　楽器が税金で購入されることを理解し，納税の大切さを考えさせる。
技術・家庭	・　生活に必要な基礎的知識を習得，実践的態度を育てる。 ・　日常生活の支出や収入から，税金に関する知識を高揚させる。
美　　術	・　鑑賞の活動を通し，豊かな心を養い，感動できる幅広い人間を育てる。 ・　用具，器具が税金で購入されることを理解し，納税の大切さを考える。
保健体育	・　体育大会等を通して，主体的に企画･運営ができる生徒を育成する。 ・　体育施設が税金で負担されていることを理解し税の大切さを考える。
道　　徳	・　基本的生活習慣の育成のため社会的役割と責任について考えさせる。 ・　法やきまりの遵守，権利と義務について理解させる。
特別活動	・　学校行事を通して，集団の一員としての自覚を深め，よりよい集団生活を築いて，自主的・実践的な態度を養う。
総合的な学習	・　租税に関する様々な実践活動を通じ主体的に取り組む態度を養う。 ・　自ら考え，学び合い，主体性のある生徒の育成を行う。
広　　報	・　租税について啓発を図り，家庭地域社会との連携を進める。 ・　PTA 活動で，保護者が税に関する知識を深め納税に納得感を育てる。

３　研究の実際

（１）　令和元年度「税に関するアンケート」分析

２年間の租税教育を推進していくにあたり，本校生徒の実態をつかむために，２回のアンケートを実施した。

１回目（令和元年９月実施　対象２年生　１４０名）

①　あなたは「税」について，興味関心がありますか。

	A　ある	B　少しある	C　あまりない	D　全くない
２年生	１０名	６６名	５０名	２４名

②　あなたは「税」の種類を,どれぐらい知っていますか。

	A　７種類以上	B　４～６種類	C　１～３種類	D　知らない
２年生	１０名	２１名	８９名	２０名

③　あなたは「税」について,家庭で話をすることがありますか。

	A　良くある	B　時々ある	C　あまりない	D　全くない
２年生	２名	２０名	６３名	５５名

④　あなたは「税」を納めることに対して,どのように思いますか。

	A 当然納める	B 仕方なく納める	C 納める必要ない	その他
２年生	８０名	５２名	８名	０名

〈アンケート考察〉

生徒は，１年次から取り組んでいる,税に関する作文指導などを通して,税に関する興味関心の割合が高まっているようだ。税金の種類は中学生用租税教育教材で学習した成果が少し見られたが，今後税金クイズや様々な活動や授業を通して,知識を増やしていきたい。本校生徒が，家庭で税のことを話すことは極端に少ないので,家庭への協力の呼びかけを行うように工夫をしていきたい。税を当然納めると考えている生徒が多いのは日頃から規律を守り学校生活を送るという強い自覚を持っているからだと予想している。

今後様々な取組を通して,公民的資質を養い,生徒の納税に関しての興味関心を高めていきたい。

（２）社会科での取組

①　租税教育の進め方

令和元年度から，租税教育推進校の指定を受け，２年間にわたり，本校で租税教育を推進していくことになった。社会科として，指定を受ける以前から毎年，税務署職員による租税教室を行い，「税の作文」や市が主催する「税の標語」作品応募にも参加し，税に関しての資料を参考に理解を深めてきた。

社会科では，１年生から計画的に，税に関連する題材に触れながら知識の積み重ねが行えるよう，３年間の指導内容を確認して社会科の授業に取り組んでいる。

社会科学習内容における税との関連箇所

学年	分野	税に関する単元と内容
１年	歴史	○　古代国家の成立　・租庸調　・労役の義務 ○　武家政治のはじまり　・守護　・地頭 ○　ゆれる武家政治　・地頭　・惣　・年貢　・座 ○　世界の動きと全国統一　・楽市楽座　・太閤検地 ○　江戸幕府の成立と鎖国　・石高　・百姓
	地理	○　世界の諸地域　・発展途上国の財政と日本と財政比較 ○　世界の諸地域　・ヨーロッパと日本の消費税比較
２年	歴史	○　ヨーロッパ近代の成立　・ボストン茶会事件　・資本主義 ○　明治維新　・地租改正や新政府の税改革
	地理	○　世界からみた日本　・日本の人口分布と課題 ○　日本の過疎化や過密化　・少子高齢化による税負担について
３年	歴史	○　第一次世界大戦　・各国の経済負担　・労働争議 ○　第二次世界大戦　・世界恐慌　・戦後の日本の改革
	公民	○　日本国憲法　・納税の義務 ○　地方財政の現状と課題　・地方の歳出や歳入の現状 ○　私たちの暮らしと経済　・消費者としての経済活動 ○　納税者としての経済　・国の支出と収入 ・社会保障と私たちの生活
その他		＊　全学年，税の作文を書く前の事前指導や調べ学習 ＊　全学年，中学生用の資料を活用して，税の使用方法を学習

〈考察〉

２年間，年間の社会科授業で税に関しての学習を組み込んできた。その結果税に関しての知識が増え，昨年度よりも税の作文を抵抗感なく，書く生徒が増えてきた。今後も計画的に税に関する内容を指導し，税についての理解を深めていきたい。

② 税金クイズ

令和元年度から,租税教育推進校の指定を受け,２年間にわたり,本校での租税教育を推進していくことになった。社会科の授業で小テストとして,税金クイズを定期的に出題して税の知識を増やすことに努力し，クイズ集は６枚作成した。定期テストにも全学年で数問出すことにより,確実に税に関して知識の定着がみられた。

税金クイズの問題例

末吉中税金クイズ集①

１　平成２９年度の国の一般会計予算は約９７兆円ですが,このうち借金の額（国債発行額）はいくらですか。

１　約１４兆円（１４％）　２　約２４兆円（２５％）　３　約３４兆円（３５％）

２　国は毎年,借金を重ねてきている（国債発行）ため,国の借金の残高は年々増えてきています。平成２９年度当初予算ペースで,いくらぐらいになると見込まれているでしょうか。

１　約６６５兆円　２　約７６５兆円　３　約８６５兆円

３　国は毎年,借金を重ねてきている（国債発行）ため,国の借金の残高は年々増えてきています。平成２９年度当初予算ペースで,国民１人当たり残高は,いくらぐらいになると見込まれているでしょうか。

１　約５１０万円　２　約５８７万円　３　約６８８万円

４　平成２９年度末には,国債発行額残高は,約８６５兆円になると見込まれています。この額を１万円札で富士山（３７７６ｍ）の高さに積み上げると,何個の山ができるでしょうか。

１　約１２９１個　２　約１７９１個　３　約２２９１個

５　平成２９年度の国の,一般会計予算（当初予算）の一般歳出の中で,一番金額の大きな額はなんでしょうか。

１　公共事業　２　社会保障　３　文教及び科学振興

〈考察〉

様々な租税教室の資料を参考にし,大隅税務署の職員に添削をしてもらい問題を作成した。生徒は,日本の借金の額の多さや,税金の使用方法に驚きながら意欲的に問題を解いていた。クイズ形式の３択で行うと生徒の苦手意識が和らぎ効果的だった。

③　税に関する作文への取組

令和元年度から,租税教育推進校の指定を受け,２年間にわたり,本校での租税教育を推進していくことになった。夏休みの宿題として,推進校の指定を受ける以前から税に関する作文や標語に取り組んできた。

作文の書き方の例

①　導入→展開→終末の順番で書いていく。
②　特に導入は,身近な場面や実体験から考えていく。
③　展開は,毎年配布される中学生用租税教育教材「わたしたちの生活と税」を参考にまとめていく。
④　終末は,この経験をどのように生かしていくかをまとめる。

作文の題材探しの具体例

①　自分の好きな本の紹介から,図書館の本が無料で借りられる理由を考え,税の関わりを調べていく。
②　体育の授業で行われる水泳から,本来なら高額な入場料がかかるが,それが無料でできる理由を考え,税の関わりを調べていく。
③　自分が幼少時に経験した手術の内容や経過をまとめ,医療費負担が少しですんだ理由を考え,税の関わりを調べていく。

税の作文を書いている様子（黒板に参考資料を掲示）

令和元年　税の作文受賞歴の紹介（学年は当時の学年）

大隅税務署長賞	３年	松本　陽菜	題名	「選挙と税金」
曽於地区納税貯蓄組合連合会優秀賞	２年	田﨑理子	１年	新地碧海
曽於地区納税貯蓄組合連合会優良賞	２年	岩下明寛	１年	園田聖真

〈考察〉

税の作文は１年生には書くことは難しいと考えていたが,教師側がヒントや書き方を提示することにより予想以上に書けることが分かった。今後も啓発をしていきたい。

④　租税教室の実施

末吉中学校は，租税教育研究委託を受ける以前から，毎年６月に大隅税務署の職員に来てもらい租税教室を実施している。生徒も外部からの講師ということで新鮮な気持ちで話を聞くことができ，税に関しての興味や関心をもつ良い機会になっている。令和２年度はコロナ禍の影響で，９月に１学級のみで行う。

大隅税務署の職員による租税教室

生徒の感想

税のことについてたくさんのことが分かって良かったです。資料を見ながらだったので，授業はすごく分かりやすかったです。たくさんの物に税がかかり，その税金を私たちが使っていることを学びました。もう少し税に感謝しながら生活していきたいです。

〈考察〉

令和２年度は，コロナウイルス感染予防のため，６月に税務署の職員による租税教室ができず，９月に１学級のみで行った。専門の職員が豊富な資料を活用しながら説明する時の生徒の反応はとても良く，充実した時間を過ごせた。様々なホームページから租税教室用のプレゼンテーションソフトで教師自身も研修を行いたい。

⑤　大隅税務署施設見学

税務署でどのような仕事を行っているのか，実際見る機会がない。税務署での仕事の様子を見学し，その様子を他の生徒へ還元すれば，税に関しての興味を持つ良い機会になると考え，大隅税務署の協力を頂き，施設見学を行った。その際，署長に生徒が質問する場面も設けて頂き大変有意義な時間を過ごすことができた。見学した内容は校内の掲示板で他の生徒へ紹介した。

税務署職員から資料説明

税務署長に生徒が質問

税務署職員と記念写真

大隅税務署玄関で記念写真

生徒の感想

お金を数える機械を見せてもらい勉強になった。署長に「曽於地区は農業関係の仕事に多くの税金が活用されている。」と言われ，どのように税金が使われているかを勉強することができた。税務署は多くの職員が働いていて驚いた。私も大人になったらしっかり税を納めたい。

〈考察〉

大隅税務署は令和元年８月の忙しい時期に施設見学をお願いしたが快く引き受けてくださり助かった。直接質問することで生徒がとても刺激を受けていた。

⑥　曽於市民祭　法人会主催のタックスフェスタへの参加

毎年曽於市では１１月に曽於市市民祭という大規模なイベントが行われる。その時に曽於地区法人会が中心になり，タックスフェスタを行う。この目的は，税のクイズ等を出して，納税に関しての意識を高めることである。生徒がこの取組に参加し，地域の活動に貢献しながら，税への興味や関心を高めることができた。

生徒の作品が掲示

税金クイズを受けるよう呼びかけ

中学生が税金クイズの解説

法人会の方々と写真撮影

生徒の感想

税金クイズの解説はとても緊張した。お客さんをブースに呼び込むことが最初は大変だったが，慣れてきたら面白かった。友達もたくさん来てくれて良かった。税金の使い方も勉強できた。

〈考察〉

地域の行事に参加しながら，同時に税に関して勉強もでき大変有意義な時間だった。法人会の方々も優しく丁寧に教えて頂き助かった。生徒がクイズのプリントを来場した人に積極的に配布する姿は，とても頼もしかった。

４　研究の成果と今後の課題

（１）　２年間の研究のまとめ

令和元年に行った，同じアンケートを再度実施して，生徒の変容を確認した。

２回目（令和２年９月実施　対象３年生　１３７名）

①　あなたは「税」について，興味関心がありますか。

	A　ある	B　少しある	C　あまりない	D　全くない
３年生	１５人	７１人	４３人	９人

②　あなたは「税」の種類を，どれぐらい知っていますか。

	A　７種類以上	B　４～６種類	C　１～３種類	D　知らない
３年生	１３人	６１人	６２人	１人

③　あなたは「税」について，家庭で話をすることがありますか。

	A　良くある	B　時々ある	C　あまりない	D　全くない
３年生	２人	５１人	５８人	２６人

④　あなたは「税」を納めることに対して，どのように思いますか。

	A 当然納める	B 仕方なく納める	C 納める必要ない	その他
３年生	１０１人	３３人	４人	０人

〈アンケート考察〉

昨年度のアンケート調査と比べ，生徒の税に関しての知識や興味・関心が高まったようだ。理由としては，租税教室の全学年での実施や税の作文を書く前の授業での定期的な積み重ねがあったのではないかと考えられる。様々な教科や領域で税に関しての授業を行うことで，生徒の税に関しての抵抗感や堅そうなイメージが変化し，より身近な存在として考えられるようになった。課題は，家庭で税に関しての話題が少ないことだ。保護者への意識の高揚を図る必要がある。

（２） 成果と課題

ア　成果

① 当たり前と思っている公的サービスが税金で成り立ち，今後自分たちも納税者として働いていこうとする義務感が育っている生徒が増えた。

② 租税教室や税の作文などの多くの活動を通して，税の仕組みなどを積極的に学ぼうという自主性が見られた。

③ 奉仕活動や外部との連携から，これからの日本について真剣に考えるよい機会を得ることができた。

④ 社会科だけでなく，他教科で税金に関連する教材を活用することで，税金に関する興味・関心が高まった。

⑤ 納税ができる生徒を育成するためにも，普段の提出物や仕事を最後までやり遂げる責任を育てることが大切であることを学校の職員で共通理解を図ることができた。

⑥ 社会科の授業で，１年時から税に関しての話を行い，税に対しての堅苦しさや抵抗感をなくすことができた。

イ　課題

① 租税教育を通して，納税に対する納得感の醸成を育てることは，多くの社会問題解決のためにも必要な教育で，社会全体で取り組む意識が大切である。

② 租税教育は一部の教員が行うのでなく，学校全体で納税に対する理解を深めるために行うべきであり，全職員の意識啓発が大切である。

③ 小学校や中学校，さらには高等学校で学習する税の内容を系統的に理解して，段階をふまえた授業を行う必要がある。

④ 租税教室充実のために，税務署と連携をとり，学校現場に応じた指導の工夫や教材の開発が求められる。

⑤ 日々の授業や生活の中で，税金が限られた財源であることを意識して考えさせることは教える側の意識の高さが求められる。

5　おわりに

租税教育研究委嘱校として，「租税教育を通して，税についての理解を深め，納税に対する納得感の醸成と主体的に社会を支えようとする態度や資質を育成する。」を主題に研究実践に取り組んできた。大隅税務署の職員の方々の協力で，生徒や教師も有意義な時間を過ごせ，大変感謝している。「大隅税務署見学」では普段見ることができない施設や税務署の仕事内容を詳しく知ることができた。納税に対して納得感の醸成を育むことは，昨今の年金不払い問題や様々な学費未払い問題を解決する良いきっかけになることを実感できた。来年度以降も，継続して租税教室や税に関しての学習を深め，更に充実した租税教育を進めていきたい。